

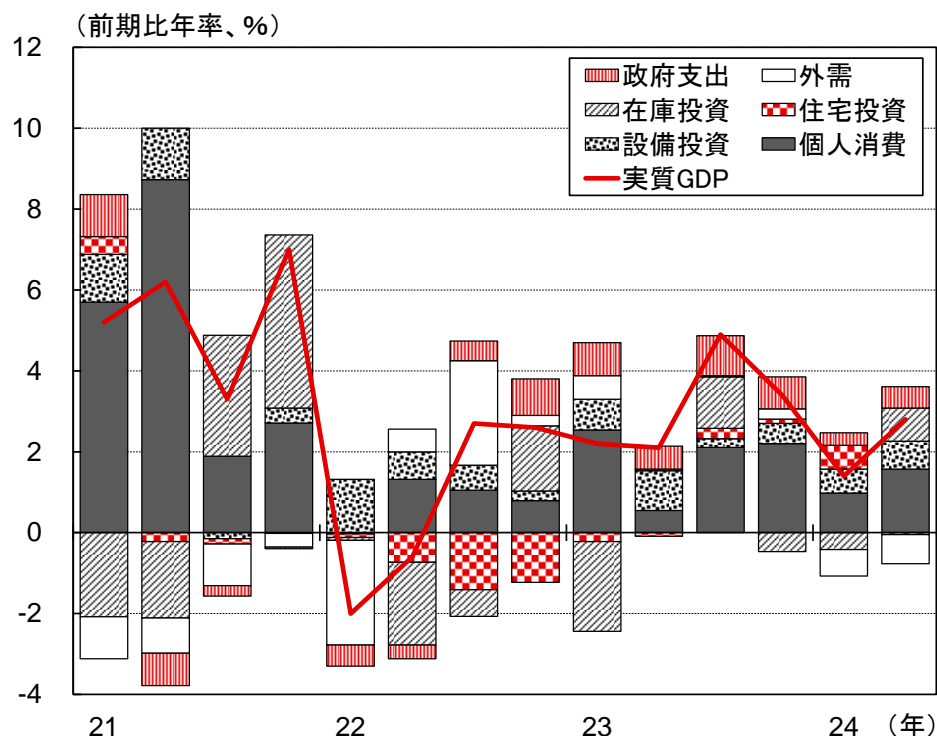
米国経済・金融概況 (2024年7月)

2024年7月26日
経営企画部経済調査室(ニューヨーク)

1. GDP

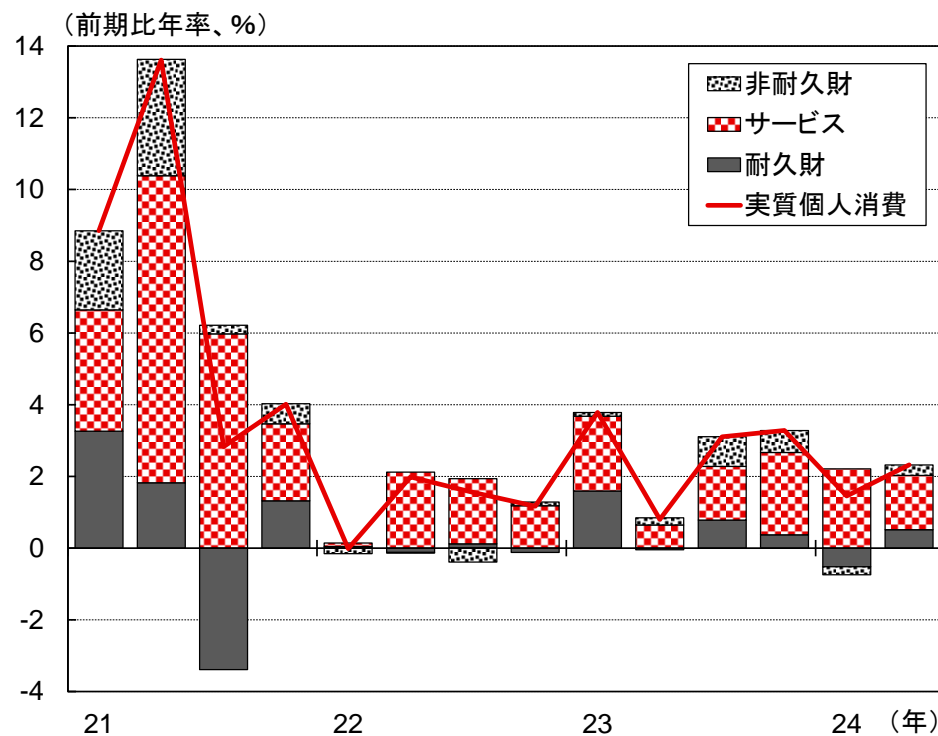
- 4-6月期の実質GDP成長率（一次速報値）は前期比年率+2.8%と前期（1-3月期：同+1.4%）から加速し、市場予想（同+2.0%）を上回る堅調な結果。
- 需要項目別にみると、全体の約7割を占める個人消費が同+2.3%（前期：同+1.5%）と加速したほか、在庫投資（寄与度）が同+0.8%ポイント（前期：同▲0.4%ポイント）とプラスに転じて全体を押し上げた。また、設備投資は同+5.2%（前期：同+4.4%）、政府支出は同+3.1%（前期：同+1.8%）とそれぞれ加速。一方、住宅投資は同▲1.4%（前期：同+16.0%）と4四半期ぶりに減少に転じた。
- 個人消費のうち、耐久財は自動車・同部品が5四半期ぶりに増加して同+2.5%（前期：同▲2.3%）、非耐久財は同+1.4%（前期：同▲1.1%）とそれぞれ増加。一方、サービスは同+2.2%（前期：同+3.3%）と伸びが鈍化。

実質GDP成長率の推移



(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

実質個人消費の推移

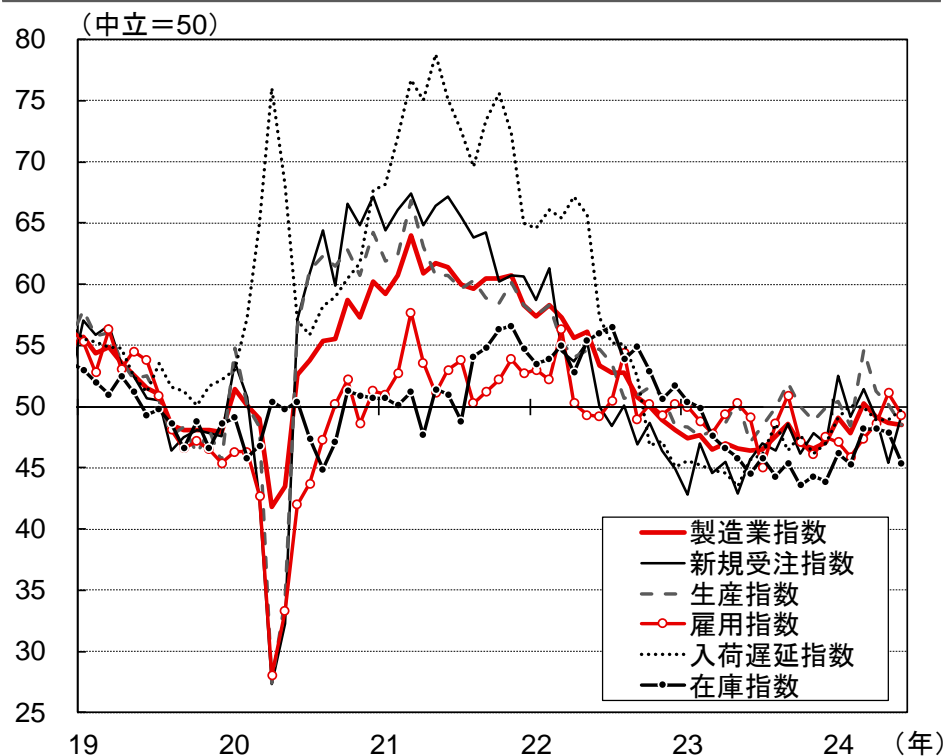


(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 企業活動

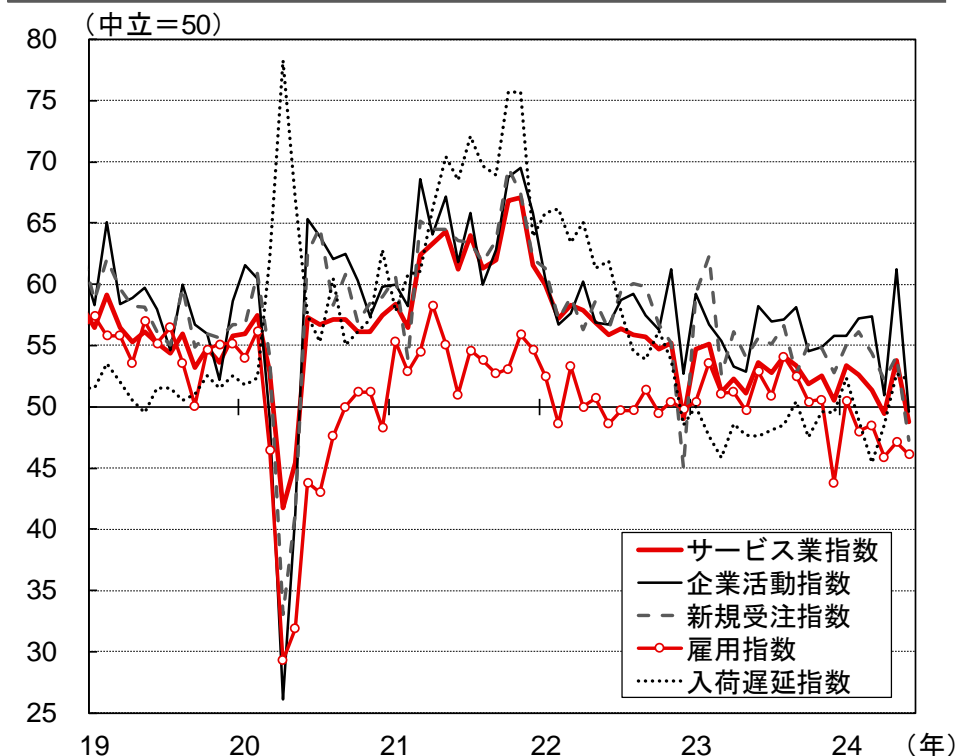
- 製造業の景況感・活動状況を表すISM製造業指数(総合指数)は、6月に48.5(前月比▲0.2ポイント)と3カ月連続で低下。指数の構成項目をみると、先行指標の新規受注指数(49.3、同+3.9ポイント)は上昇した一方、在庫指数(45.4、同▲2.5ポイント)、雇用指数(49.3、同▲1.8ポイント)、生産指数(48.5、同▲1.7ポイント)は低下。現行の金融引き締めの下で設備や在庫への投資が手控えられ、需要を下押ししているとISMIは指摘。産業別では全18産業のうち8産業が拡大、9産業が縮小、1産業が横這いを報告(5月は7産業が拡大、7産業が縮小、4産業が横這い)。
- 6月のISMサービス業指数(総合指数)は48.8(前月比▲5.0ポイント)と2カ月ぶりに大幅低下。企業活動指数(49.6、同▲11.6ポイント)、新規受注指数(47.3、同▲6.8ポイント)が大きく低下し、雇用指数(46.1、同▲1.0ポイント)は5カ月連続で50(中立)を下回った。回答企業はインフレによる需要減退や原材料コストの高止まりの影響を指摘。産業別では全18産業のうち8産業が拡大、8産業が縮小、2産業が横這いを報告(5月は13産業が拡大、5産業が縮小)。

ISM製造業指数の推移



(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

ISMサービス業指数の推移

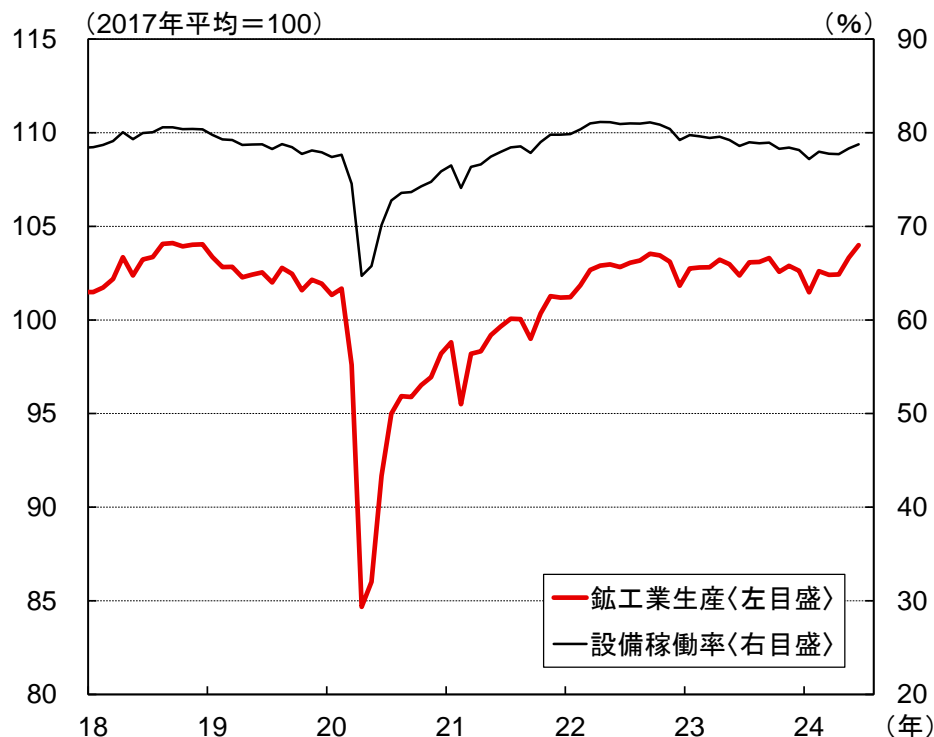


(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 生産

- 6月の鉱工業生産は前月比+0.6%と3ヵ月連続で増加。産業別にみると、全体の約7割を占める「製造業」が同+0.4%と2ヵ月連続で増加、うち「自動車・同部品」は同+1.6%と3ヵ月ぶりに増加。また、「鉱業」は同+0.3%と2ヵ月ぶりに増加。「公益事業(電気・ガス)」は熱波による冷房需要増加で同+2.8%と高い伸びとなり、全体を押し上げた。6月の設備稼働率は78.8%と前月から0.4%ポイント上昇。
- 6月の耐久財受注は前月比▲6.6%と大幅に減少。「輸送用機器」(同▲20.5%)が「民間航空機」の受注キャンセル等により大幅に減少。一方、「機械」(同+1.6%)、「電機・家電」(同+1.3%)、「コンピュータ・電子部品」(同+0.8%)等は増加。設備投資の先行指標であるコア資本財受注(非国防資本財受注、除く航空機)は同+1.0%と2ヵ月ぶりに増加。

鉱工業生産と設備稼働率の推移



(資料)FRB統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

耐久財受注の推移

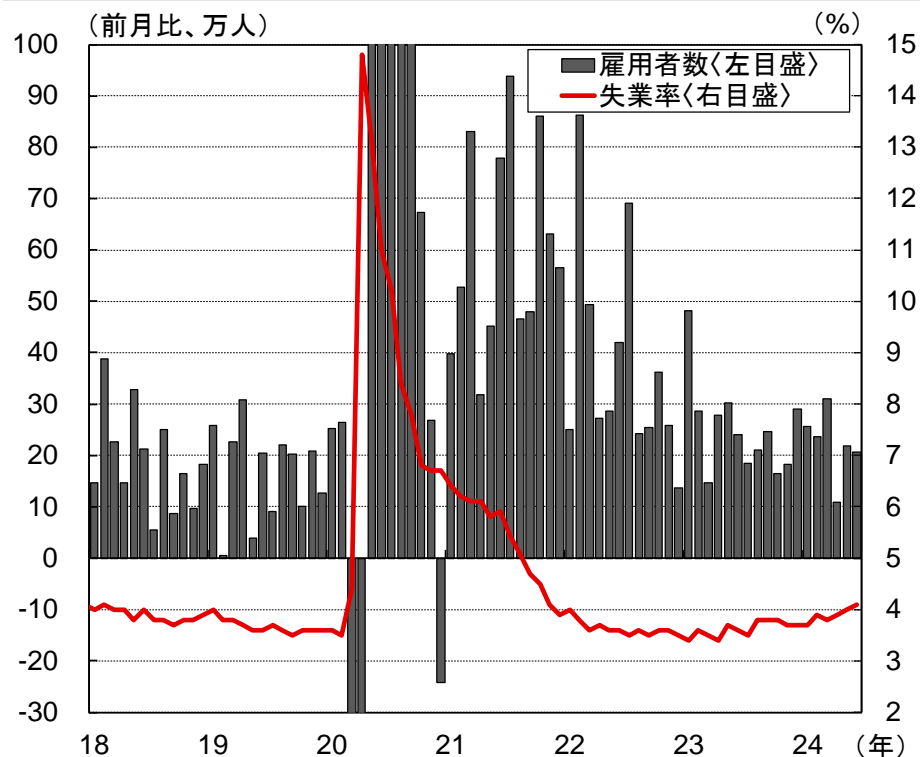


(資料)米商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

4. 雇用

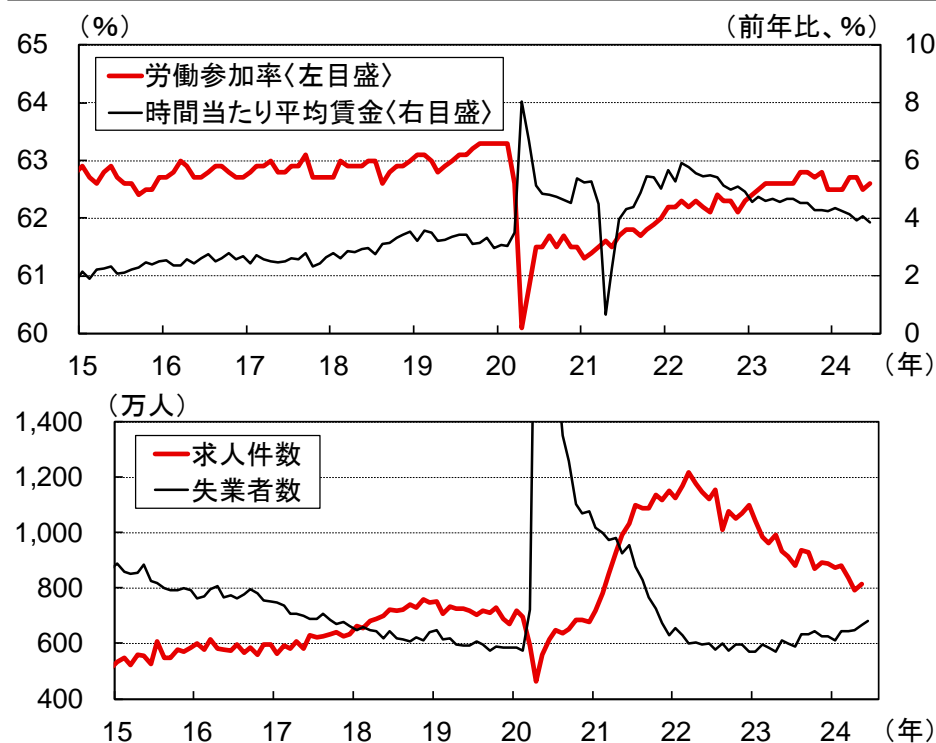
- 6月の非農業部門雇用者数は前月比+20.6万人と市場予想(Bloomberg集計:同+19.0万人)を上回る底堅い伸び。業種別にみると、「医療・社会扶助」(同+8.3万人)、「公務」(同+7.0万人)、「建設業」(同+2.7万人)、「卸売業」(同+1.4万人)等が増加した一方、「専門・ビジネスサービス」(同▲1.7万人)、「小売業」(同▲0.9万人)、「製造業」(同▲0.8万人)等は減少。
- 6月の失業率は4.1%(前月差+0.1%ポイント)と3カ月連続で上昇。労働参加率は62.6%(同+0.1%ポイント)と小幅上昇、時間当たり平均賃金(民間部門)は前年比+3.9%(5月:同+4.1%)と伸びが鈍化。
- 5月の求人件数は814.0万件(前月比+22.1万件)と3カ月ぶりに増加。求人件数は失業者数の約1.22倍とパンデミック前の水準に戻っており、労働需給の逼迫感は緩和している。

非農業部門雇用者数・失業率の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

労働参加率・平均賃金・求人件数・失業者数の推移

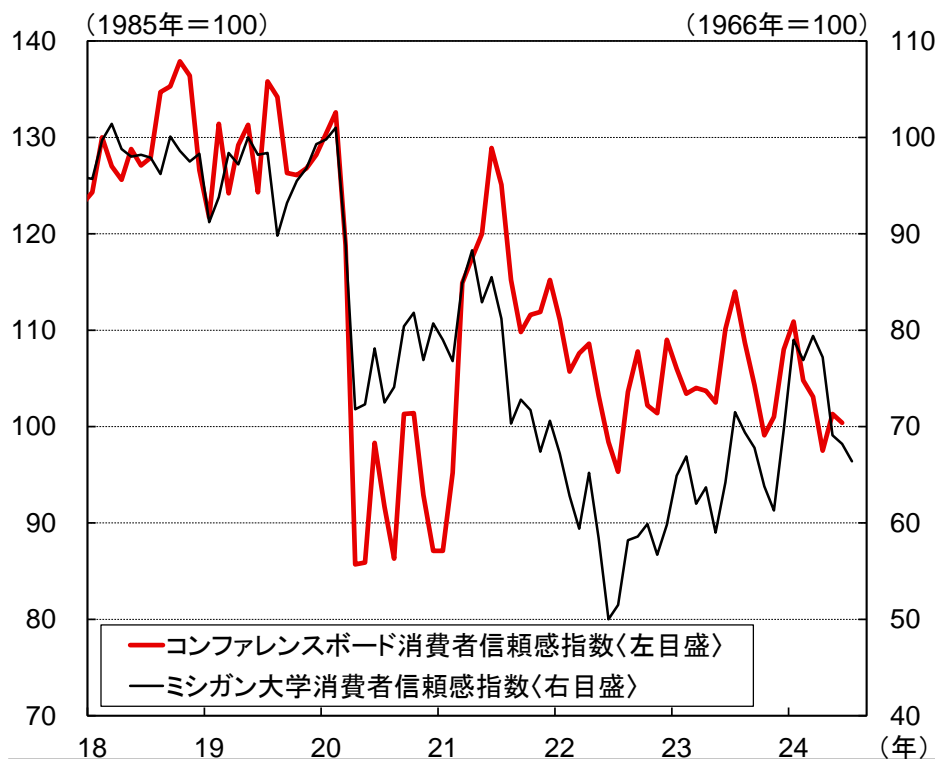


(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

5. 個人消費

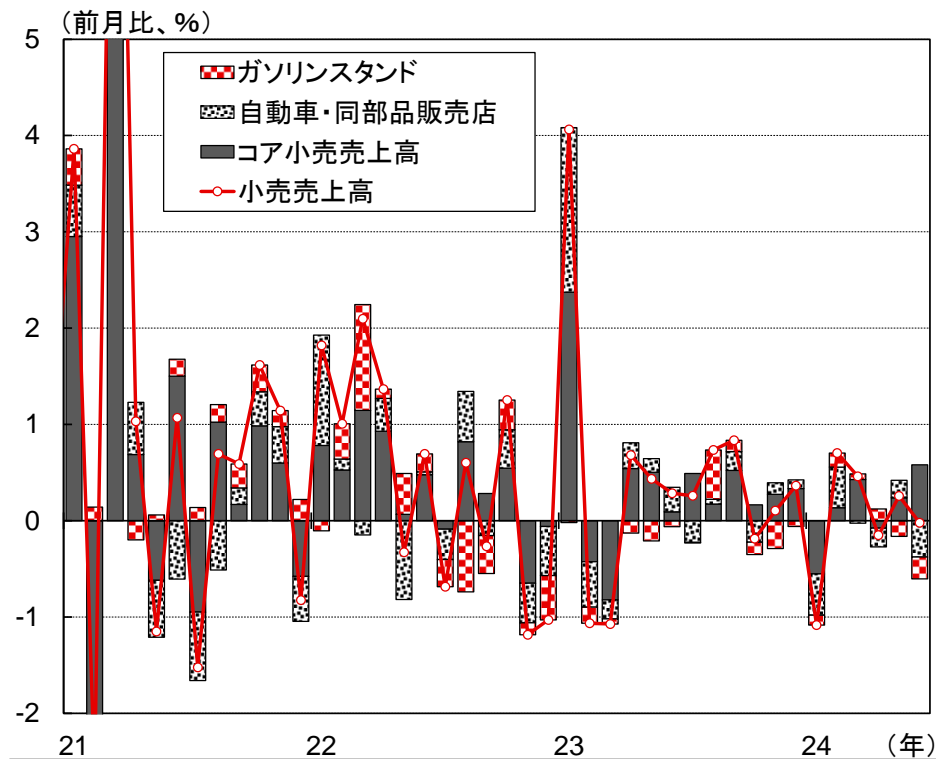
- 6月のコンファレンスボード消費者信頼感指数は100.4(前月比▲0.9ポイント)と2ヵ月ぶりに低下。また、7月のミシガン大学消費者信頼感指数は66.4(前月比▲1.8ポイント)と4ヵ月連続で低下。長引くインフレにより低所得者層を中心にマインドが慎重化しているとミシガン大学は指摘。
- 6月の小売売上高は前月比+0.0%(5月:同+0.3%、改定値)。「自動車・部品販売店」と「ガソリンスタンド」を除くコア小売売上高は同+0.8%(5月:同+0.3%、改定値)と市場予想(同+0.2%)を上回る伸び。業種別にみると、「ガソリンスタンド」(同▲3.0%)、「自動車・部品販売店」(同▲2.0%)は減少した一方、「無店舗小売店」(同+1.9%)、「建材・園芸用品店」(同+1.4%)、「衣料品販売店」(同+0.6%)、「総合小売店」(同+0.4%)、「レストラン」(同+0.3%)等が幅広く増加。

消費者信頼感指数の推移



(資料)コンファレンスボード、ミシガン大学統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

小売売上高の推移

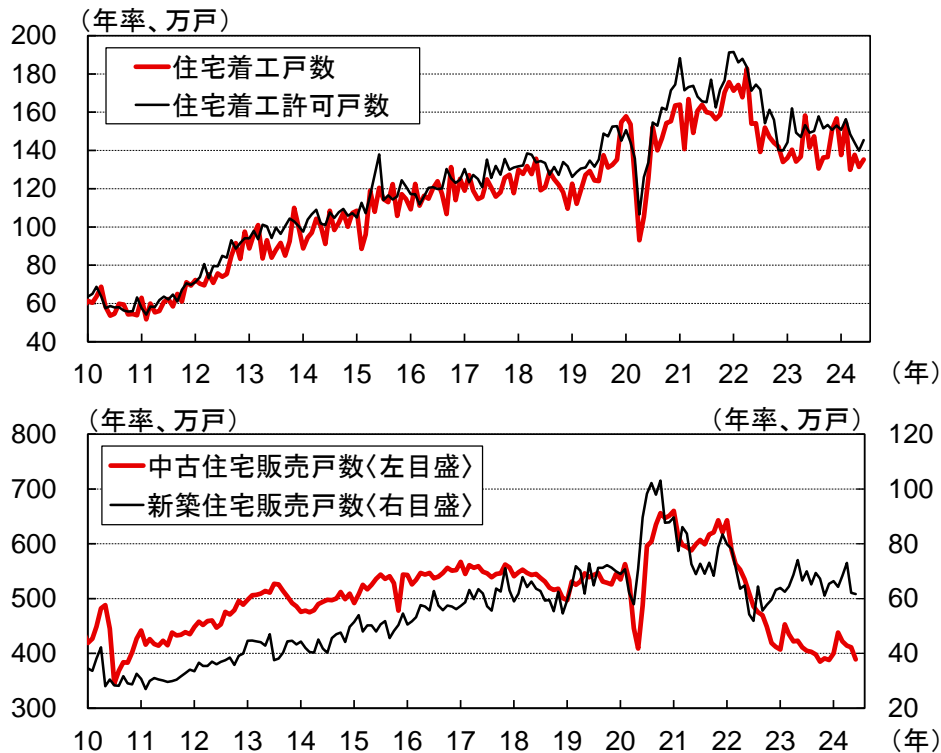


(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

6. 住宅

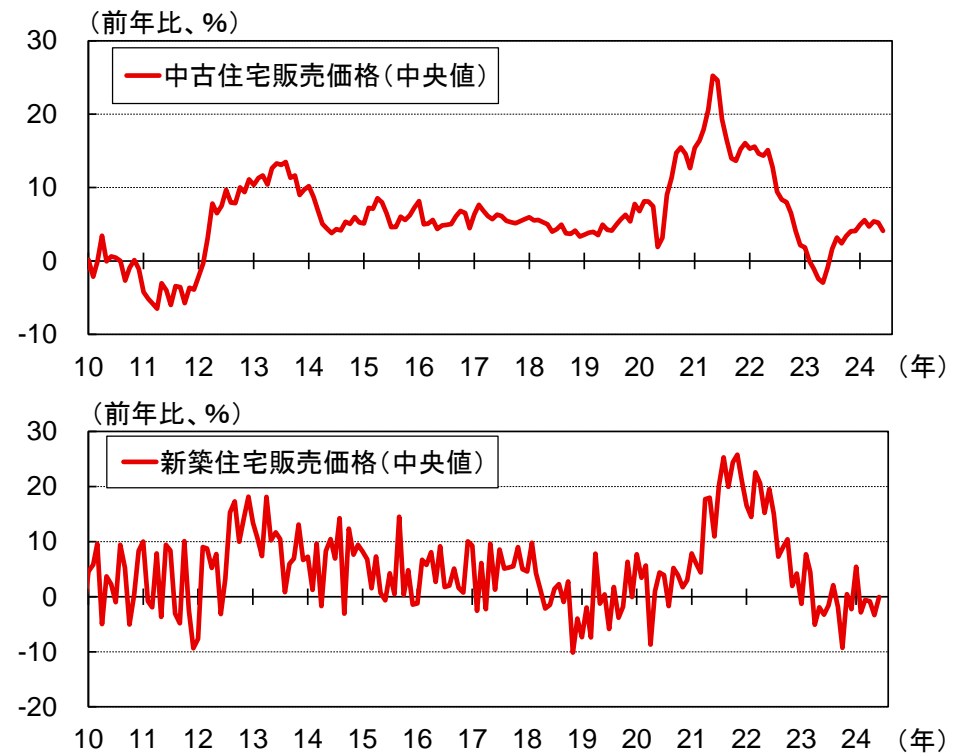
- 6月の住宅着工戸数は前月比+3.0%の年率135.3万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに増加。内訳をみると、変動の大きい集合住宅(5世帯以上)は同+22.0%と2ヵ月ぶりに増加。一方、一戸建住宅は同▲2.2%と4ヵ月連続で減少し、8ヵ月ぶりに年率100万戸を下回った。先行指標である住宅着工許可戸数は同+3.9%の年率145.4万戸(季節調整済)と4ヵ月ぶりに増加。
- 6月の住宅販売戸数は、中古住宅が前月比▲5.4%の年率389万戸(季節調整済)と4ヵ月連続で減少、新築住宅は同▲0.6%の年率61.7万戸(季節調整済)と2ヵ月連続で減少。
- 6月の住宅販売価格は、中古住宅が426,900ドル(中央値)、前年比+4.1%と前月(5月:同+5.2%)から伸びが鈍化。新築住宅は417,300ドル(中央値)、同▲0.1%と5ヵ月連続で下落も、下落幅は前月(5月:同▲3.3%)から縮小。

住宅着工戸数・着工許可戸数・住宅販売戸数の推移



(資料)全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

住宅販売価格の推移



(資料)全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

7. 物価

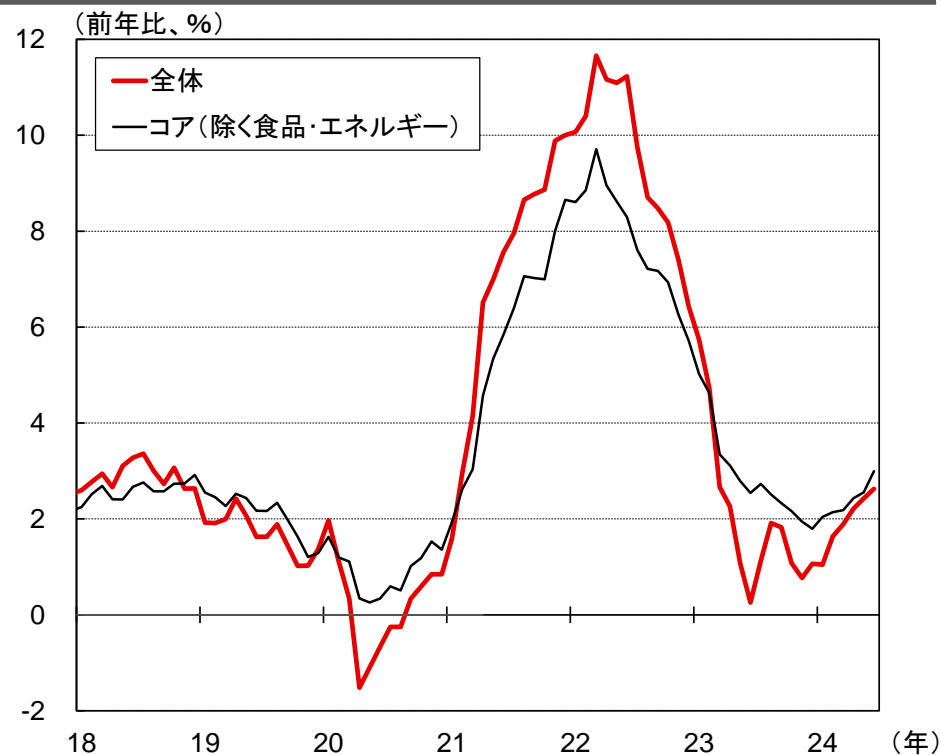
- 6月の消費者物価指数は前年比+3.0%（5月：同+3.3%）、食品とエネルギーを除いたコア指数は同+3.3%（5月：同+3.4%）とそれぞれ伸びが鈍化。前月比では、総合指数は▲0.1%と下落、コア指数は+0.1%と2021年8月以来の低い伸び。品目別にみると、ウェイトの大きい「住居費」が前年比+5.2%（5月：同+5.4%）、前月比+0.2%（5月：同+0.4%）とそれぞれ鈍化。財は「中古車」が前年比▲10.1%（5月：同▲9.3%）、前月比▲1.5%（5月：同+0.6%）と下落。
- 6月の生産者物価指数は前年比+2.6%（5月：同+2.4%）と5カ月連続で伸びが加速。内訳をみると、「財」は同+1.0%（5月：同+1.6%）と鈍化した一方、「サービス」は同+3.5%（5月：同+3.0%）と加速。食品とエネルギーを除いたコア指数は同+3.0%（5月：同+2.6%）と6カ月連続で伸びが加速。

消費者物価指数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

生産者物価指数の推移

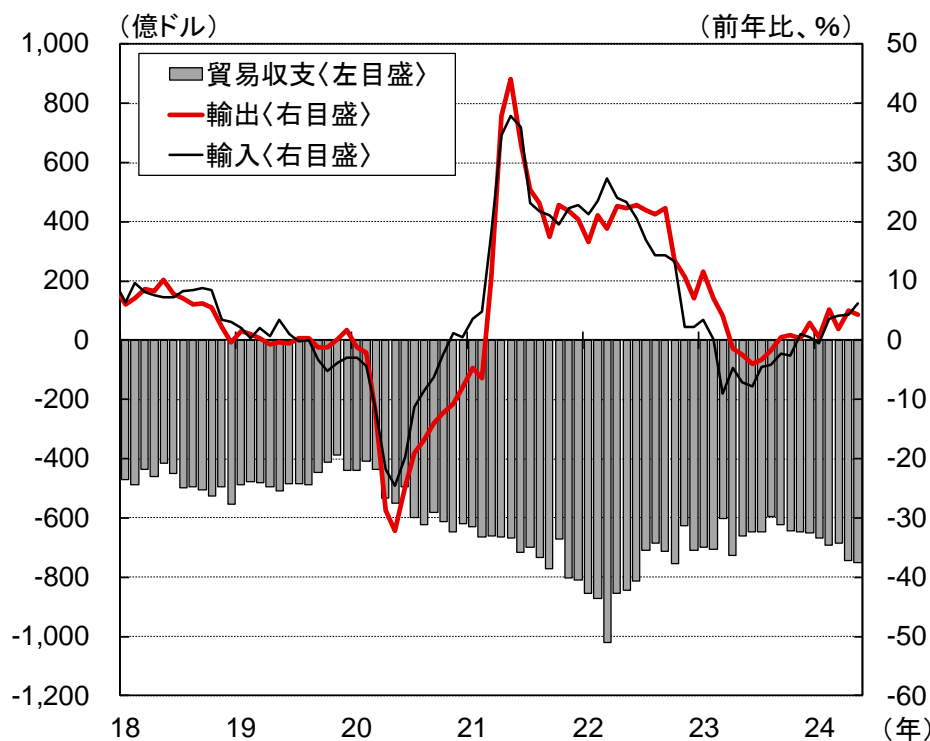


(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

8. 国際収支

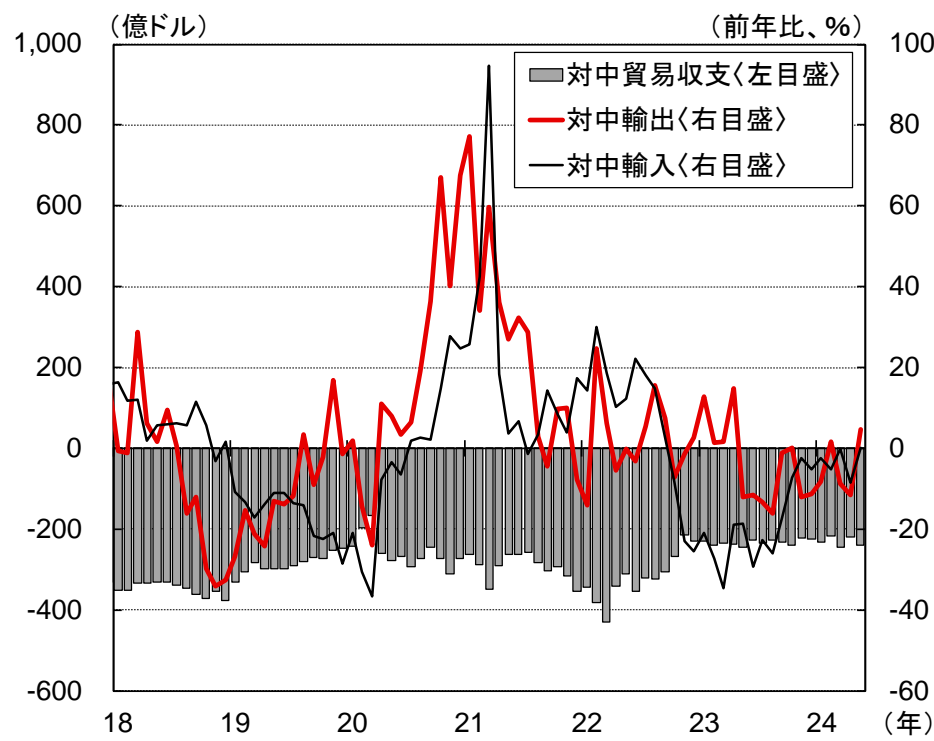
- 5月の貿易収支(財・サービス)は751億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比+0.8%(同+6億ドル)と小幅拡大。輸出は同▲0.7%(▲18億ドル)、輸入は同▲0.3%(同▲12億ドル)とそれぞれ2ヵ月ぶりに減少。前年比で見ると、輸出は+4.3%、輸入は+6.2%。
- 財の貿易収支を国・地域別で見ると、米国の貿易赤字(財)の3分の1程度を占める中国は5月に239億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比+8.5%(+19億ドル)と拡大。対中輸出(財)は同▲4.5%(同▲5億ドル)と2ヵ月ぶりに減少、対中輸入(財)は同+3.8%(同+13億ドル)と2ヵ月ぶりに増加。前年比で見ると、対中輸出(財)は+4.7%と3ヵ月ぶりに増加、対中輸入(財)は+0.0%と20ヵ月ぶりにマイナス圏から脱した。

貿易収支と輸出入(財・サービス)の推移



(注)国際収支ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

対中貿易収支と対中輸出入(財)の推移



(注)通関ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

9. 金融市場動向

- 10年物国債利回りは、6月の消費者物価上昇率が総合指数、コア指数ともに市場予想以上に低下し、年内の利下げ観測が強まったことから7年半ばに4.1%台まで低下。その後、共和党の大統領候補に正式に指名されたトランプ前大統領が再選された場合には財政赤字拡大につながるとの見方から、長期金利はやや上昇。
- ダウ平均株価は、年内の利下げ観測の高まりや景気軟着陸への期待から、2ヵ月ぶりに史上最高値を更新。その後、年初から急上昇していたハイテク株の調整により下落。

10年物国債利回りの推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

ダウ平均株価の推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名 : 株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室(ニューヨーク)
1251 Avenue of the Americas, New York, NY 10020, USA

照会先 : ウォルショー 瞳 e-mail: hwalshaw@us.mufg.jp